

# 学習指導センターだより

第9号【令和8年1月8日（木）】

〒949-6680 南魚沼市六日町 865 南魚沼市民会館2F 南魚沼市学習指導センター

☎:025(773)6702 Fax:025(773)6703 Eメール:mgakusen@minamiuonuma.ed.jp

ホームページ URL:<https://www.minamiuonuma.ed.jp/1570003> [南魚沼市学習指導センター]で検索



## 「問い合わせ」で子供の力を育てる

昨年10月に開催した「学力向上に係る情報交換会」では、今年度のRSTの市内の結果をお示しし、課題の1つは、「同義文判定」であることを共有しました。そして、「同義文判定」にかかわる必要な学習の1つとして、「仲間の発言や考えを、自分の言葉で言い換える機会をつくること」が大切であることをお伝えしました（学セン資料R7.9.1『「同義文判定」に関わる必要な学習』にも記載【Vフォルダ→02 常用→10 学習指導センター→01 データ共有用→読む力→R7→「読む力」の視点から学習を考える】）。

このような機会をつくることに関わって、最近参加した研修会で、教師の「問い合わせ」が話題となりました。学んだことを紹介します。

### 【研修会1】「話す力・聞く力・話し合う力の育て方」 オンライン 筑波大学附属小学校 弥延浩史先生×溝越勇太先生

対談の中で弥延先生は、「教師が、子供の反応をどう拾うかで、話し合う力、聞く力に差が生まれる」という考え方のもと、「発表後の『いいです』、『同じです』から脱却しよう」と提案されていました。『同じです』という反応には、「何が同じなの？」「何が同じなのか自分の言葉で説明できる？」と教師が間に入りて問い合わせをしていくことが大切だとおっしゃっていました。さらに、「分かった人？」と聞くと子供たちは分かっていないそれでも頷いてしまうため、「○○さんの気持ちが分かるかな?」「○○さんの言いたいことってみんなに伝わった?」「○○さんはこの後何で言いたいと思う?」と問い合わせ、別の子に話をさせることを大事にしているということでした。そうすることで、子供たちの話す機会が増えると共に、「この先生は問い合わせてくる」と思うようになり、相手の話を聞こうとする意識が高まっていくということです。

一方、溝越先生は、「『同じです』は、思考がストップしている感じがする」と考えられており、「同じです」と返答が返ってきたら、「自分の言葉で言ってごらん」と必ず返すようにしているということです。そして、自分の言葉で言うことができたら、「同じことを言おうとしても、ちょっと違ったね。一人一人違うところが素敵なところだね」と価値付けるように心掛けているということでした。

### 【研修会2】「新しい国語実践研究会 2025冬の授業研究会」 オンライン

授業動画の公開をもとに学ぶことができた研修会でした。授業者の先生は、「子供の言葉で子供同士がつながってほしい」という思いをもち、たくさん問い合わせして、子供たちが自分の言葉で語る機会をたくさん作っていました。授業者は、以下のように問い合わせていました。

- ・「何でそう考えたの?」
- ・「どういうこと?」
- ・「伝わる?」
- ・「○○さんの言ったことの意味は分かる?」
- ・「○○さんの言っていること、先生は分からなかったのだけどみんなはどう?」

問い合わせた後、「お隣さんとお話ししてごらん」と、適宜ペアで交流する時間を確保していました。

「子供の発言をコーディネートする力」は教師に必要な力であることを改めて学ぶ機会となりました。

今求められている教師の役割として、「子供の会話をつなぐ」、「子供の考えを広げる」ファシリテーターとしての役割が挙げられます。子供たちの発言は、教師が受け止めて終わりにするのではなく、ぜひ、「問い合わせ」を行い、その内容を学級全体で共有するとともに、子供たちが自分の言葉で話す機会をたくさん設けていただきたいと思います。「問い合わせ」を意識し、子供たちの様々な力を高めていただきたいです。

(文責:荒井 一人)

## 「読む力」育成に向けた授業づくり研修より

南魚沼市学習指導センターでは、市内の学校の先生方と共に「読む力」を育むための具体的な取組について学ぶために、授業公開と協議会からなる研修講座を開講しております。令和7年度の研修内容を紹介します。

### ◆7月8日（火）六日町中学校

授業は、中学2年生の社会科『日本の諸地域』中国・四国地方の学習でした。課題は、「中国・四国地方における人口減少の現状と要因などを、様々な資料を組み合わせて説明すること」でした。そのために、本時は、グループごとに異なる資料を読み、読み取ったことを交流する活動が行われました。子供は話し合いながら、資料から分かることを書き出していきました（正しく読む）。教師はグループを見て回り、必要に応じて「資料のタイトルの意味は？」「何が増えて、何が減っている？いつから変わっている？」などと、読む視点について助言しました。グループの発表では、その都度教師は読み取られたことを評価し、事実の背景について補足しました。その後は、発表内容を基に、各自が課題に対する考え方をまとめました（深く読む）。



### ◆10月2日（木）北辰小学校

授業は、小学3年生の国際科 Let's Try! Unit8 「What's this?」の学習で、本時の目標は「ゲストの先生に日本のアニメキャラクターを説明する」でした。教師は本時における「読む力」を「正確に情報を聞き取ること」「正しく聞き取った情報と既習の知識を基に自分の考えをつくること」と考え、次の活動を実施しました。1つめは「Small Talk」（聞く言語活動）です。子供は、どんな場面で本時の言語材料を使うか理解し、相手意識をもった表現活動へ意欲を高めていました。2つめは「中間指導」です。教師は、子供の「問い合わせ」に丁寧に耳を傾けながら、既習の英単語や英文でどう表現するか確認する場面を設けました。最終的には、子供は班ごとに、英語を使って、ゲストの先生に日本のアニメキャラクターについて説明することができました。



### ◆11月6日（木）六日町小学校

授業は、小学1年生の国語「いろいろなふね」で、「やく目」「つくり」「できること」という構成で説明されている文章であることを理解する学習でした。教師は2番目に紹介されている「フェリーボート」の文章を教科書と違った順番で提示しました。子供がそれを並び替え、順番の妥当性を説明する活動を行いました。

まず文章を正しい順番に並び替える際に大事な言葉に着目することを意図して教師が間違えて読む「ダウト読み」を行いました。子供は、教師の音読を集中して聞き、間違いに気付くと、大きな声で指摘していました（正しく読む）。



そして、「フェリーボート」の各文の中で、大事な言葉に線を引き、それを根拠に説明したり、最初に紹介されている「きやくせん」の文章の構成を理由に説明したりする（深く読む）ことができました。

（文責：井口 浩・中澤 晃・荒井 一人）

# 1月&2月 INFORMATION

★お知らせ★ アンケートについてのお願いです。



## ○「学習指導センター事業アンケート」の提出について

1月5日付でメール送信させていただきました、標記アンケート調査にご協力ください。学校訪問や研修講座などの当学習指導センターの事業を振り返り、率直なご意見をお聞かせください。

提出方法：Google フォームでの回答。各校代表者1名がご入力ください。

(詳細は配付の文書をご確認ください)

回答期限：1月30日（金）

★学校訪問★ 1月、2月の計画訪問・要請訪問の予定です。

期 日	学校名（教科等）	期 日	学校名（教科等）
1月 19日(月)	赤石小(外)	2月 4日(水)	城内小(外)
1月 21日(水)	おおまき小(算)		

★研修講座★ 2月実施の研修講座です。

期 日	コード	研 修 講 座	会 場
2月 3日(火)	H03	《校内研修》第2回学力向上推進研修 (研究主任必修)	ふれ愛支援センター 多目的ホール
2月 18日(水)	H10	《理科》【理科主任会】教材・教具活用研修  *2月2日までに Plantで申し込みをお願いします。	北辰小学校 第1理科室
2月 20日(金)	R10	《生活科》【重点単元別研修】 单元「豆腐作り」	北辰小学校 第1理科室
2月 25日(水) [予備日26日(木)]	R25	《理科》【野外研修】 スノーシュー研修会	旧五日町キー場 集合:五日町パーキング

本研修講座をもって、令和7年度の研修講座全日程を終了します。  
この1年間、大勢の先生方から研修講座に参加していただきました。  
ありがとうございました。

